



# えんくるり事業

## ニュースレター

### ～参加法人琴浦町3法人特集～

No.10 平成30年6月発行  
鳥取県社会福祉協議会  
地域福祉部  
TEL0857-59-6332

# 琴浦にっこにご食堂オープン

えんくるり事業に参加している琴浦町内の社会福祉法人が地域に求められるサービスを協働で考え、6月13日(水)に子どもの居場所「琴浦にっこにご食堂」をオープンしました。

当日は各法人スタッフや住民ボランティアが調理、見守り(学習・遊び)等に分かれ運営しました。

始まる前はどのくらい来てくれるだろうか、楽しんでもらえるだろうかと不安もありました。しかし、17時を過ぎる頃には、赤ちゃん連れのお母さん、元気な小学生、地域の高齢者など40名を超えるたくさんの方が訪れ賑わいました。

小学生の女の子からは『まだ帰りたくないな』と名残惜しそうな声、3人のお子さんと来られたお母さんは、『少しでも子どもを見てもらえると助かります』と話されました。

琴浦町内の子どもたちが安心して信頼できる大人と過ごせるような“子どもたちを支える場”、訪れた方もスタッフも“みんなが笑顔にっこにこになれる場”になることでしょう。



こども食堂オープンまでには、3法人で検討会を開催し話し合いを重ねてきました。

学習  
支援



遊び



～どなたでも利用可能～  
**次回開催 7月11日(水)**

**15:30～19:00**

子ども100円 大人200円

\*小学校からの送迎も事前相談  
で応じて行っています!

こども  
食堂



遊び



琴浦にっこにご食堂は、琴浦町社協が実施主体となり、立石会、赤碕福祉会の協力のもと6月13日にオープンしました。地域に困りごとを抱えた子どもがいる事実—社会福祉法人として何かできるのではないかと、の想いから手探りで立ち上げたこども食堂。琴浦町初となるこども食堂開設について3法人にお話しをうかがいました。



## 社会福祉法人琴浦町社会福祉協議会

## 実施



事務局長  
小代ひとみ氏

社会福祉法人連絡会の開催を計画するなか、えんくるり事業がスタート。参画法人である立石会、赤碕福祉会と協働し、えんくるり事業を活用した社会資源開発を行うことになりました。実際、どのような事業を行うかと考えたとき、子どもの貧困、孤食など近年の社会的背景もあり、以前から念頭にあった「こども食堂」を提案。2法人からも賛同を得られ、何度も合同検討会を開き準備を進めてきました。こども食堂の開設までには様々な課題がありましたが、3法人で意見を出し合い解決してきました。スタッフの確保、子どもの送迎など、2法人の協力は欠かすことができません。できることからやっていき、このにっこにご食堂の開設を機に、社会福祉センターがこどもからおとなまで気軽に立ち寄れる、福祉の拠点としてふれあいのスペースになればと考えています。



えんくるり事業  
相談員  
西本行則氏

## 社会福祉法人立石会



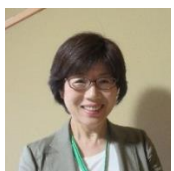
特別養護老人ホーム  
みどり園施設長  
坂本文秋氏

えんくるり事業が始まり、琴浦町社協、赤碕福祉会、立石会の3法人で何かしたい、琴浦町にない社会資源を作りたいと考えていました。高齢者の介護サービス等はそれなりに充実していますが、子ども対象の取組みは遅れているのではないのでしょうか。こども食堂開設にあたり、行政から町内の実情について聞き取りをし、ニーズがあることも分かりました。高齢者のプロとして高齢者の輸送事業などもできたかもしれませんが、地域の子どもたちを地域で大切に育てていきたいとの思いから、今回の事業へ参画することにしました。やってみて、何か困ったらまたみんなで話をして修正していけばいい。とにかくやってみる事、いかに続けていけるか、どうやったら続けていけるかを大事にしています。継続することに意味があると思っています。今は琴浦町社協1か所での開設ですが、ゆくゆくは3法人それぞれが各地区でこども食堂を開設できればと考えています。



えんくるり事業  
相談員  
小倉寿行氏

## 社会福祉法人赤碕福祉会



介護老人福祉施設  
百寿苑施設長  
入江祐子氏

えんくるり事業には当初から参画していますが、高齢者施設の性質上、介護に関する相談はあるものの生計困難者からの相談はほとんどないのが現状です。参画法人として何が出来るかと模索するなか、琴浦町社協からの提案で3法人協力のもと、こども食堂を立ち上げることになりました。立ち上げ準備に関わるなかで、私たちが暮らす地域にも困りごとを抱える子どもたちがいることを知り、この事業が子どもたちの安心できる居場所となれば、更には子ども達の今後の支援についても考える機会となればと願っています。今はまだ形を作る段階ですが、事業を行ううちに子どもたちにとってより良い形にしていけばよいと思っています。手を広げ過ぎず、無理をしない。そうやって続けていくことが何より大事なことはないのでしょうか。ここに来てよかった、あったかい場所だなと感じてくれる子どもが増えたらうれしいですね。こども食堂を開設する意味を大切にして活動を続けていけたらと思います。



えんくるり事業  
相談員  
圓山香奈氏

### ☆お知らせ☆ ～平成30年度えんくるり事業分担金の納入について～

今年度の分担金につきましては、7月10日に分担金の根拠となる「平成29年度資金収支計算書」をご提出いただき、中旬頃に納入の御案内をさせていただく予定としておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。なお、詳細につきましてはおってお知らせいたします。